

麻疹（はしか）と
風疹について

名和診療所 紙本美菜子

全国で麻疹（はしか）患者が増加しています。予防接種歴がない、または不明な方の感染報告が全体の約8割を占め、特に予防接種前の0歳児と予防接種を受けていない1歳児に多いようです。2007年の大規模流行では10〜20歳代の患者が多かったのですが、今年には10歳未満の患者が多くなっています。検出ウイルスは海外で流行しているタイプで、海外で感染した人が帰国後に発症する「輸入麻疹」が、渡航歴のない人にも広がっているようです。

麻疹は、肺炎や中耳炎などを合併しやすい、患者1000人に1人の割合で脳炎が発症し、けいれんや麻痺など後遺症が残る場合や死亡例もあります。ワクチンが普及していない発展途上国では、子どもの死亡原因の1、2位を占める病気です。風疹（三日ばしか）もここ数年流行しています。昨年は1万4千人が罹患して、流行開始前の6倍となりました。

また、免疫のない女性が妊娠初期に風疹に感染し、おなかの赤ちゃんに先天性の心疾患、難聴、白内障等の障害を起こす先天性風疹症候群が大きな問題となっています。我が国では平成25年12月時点で先天性風疹症候群の赤ちゃんが30人生まれています。先天性風疹症候群の発症率は妊娠1か月で50%、2か月で

35%、3か月で18%と、女性が妊娠に気づき、病院で確定されるまでの期間で確率が高いため、普段からの予防が重要です。

今年度鳥取県では、妊娠を希望する女性やその同居者に対して風疹抗体価検査費用を助成し、市町村では抗体価の低い女性や妊婦の夫に対し風疹ワクチン接種の費用助成をしています。20代後半以上の男性は、かつて風疹ワクチン定期接種の対象でなかったため、免疫がない方が多く、いま30〜40代の子育て世代の男性に発症例が集中しています。女性だけが気をつけても防ぎきれない、男性も他人ごとではないのです。

麻疹や風疹はかつて子どもたちの間で普通に流行していた感染症でした。「かかって自然免疫をつければ大丈夫」という声をよく聞きますが、かかること自体危険だということ忘れてはいけません。そして、一度罹患しても免疫が不十分で再感染することもあり、ワクチンも1回接種では不十分な場合もあります。ワクチンにも副作用の問題など賛否両論ありますが、ワクチン接種で世界中の多くの子どもたちの命を守ることができているのも事実です。

予防接種の普及のおかげで罹患率が低くなった一方で、免疫のない若者が増えていきました。また予防接種制度の谷間で接種を受けられる時代になりました。麻疹、風疹は春から夏に流行期を迎えます。まずはご自分の母子手帳で、かかった記録や予防接種の記録を確認してみましよう。そして、自分や身近な子どもたちの健康について、もう一度考えてみませんか。

特に気温が上がり始める梅雨明けの時期や、前日に比べて急に気温が高くなる日は、体が高温になれていないため注意が必要です。

暑さを乗り切って
熱中症を予防しましょう！

水分・塩分補給

- ・のどが渇かなくても、こまめに水分補給をする
- ・たくさん汗をかくときは水分だけでなく塩分も補給する



住まい

- ・窓を開けて風通しをよくする
- ・適度に扇風機やエアコンを利用する

服装

- ・外出時には、日傘、帽子を使用する
- ・通気性・吸湿性のよい衣服を身につける

体調管理

- ・バランスのよい食事や、睡眠、休養をしっかりとる
- ・少し汗をかく程度のウォーキングをする

もしもの時の応急処置

- ・涼しい場所へ避難させる
- ・衣服を脱がせ、身体を冷やす
- ・水分・塩分を補給する

自力で水を飲めない、意識がない場合は、
すぐに救急車を呼びましょう！